

令和3年度 健全育成委員会主催 第3回オンライン講演会(概要)

日時：令和3年12月19日(日)10:00~12:00

テーマ：『性別の枠に囚われず自分らしく生きる』～多様性及び個性とは～

講師：一般社団法人 日本 LGBT 協会

代表理事 清水 展人(ひろと)氏

参加者：78名

本日の講演の内容

- 1、性の多様性 (SOGIESC) について
- 2、性的マイノリティについて
- 3、清水氏ご自身の体験から
- 4、質疑応答

1、性の多様性について

性のあり方はいろいろ！

多様性を理解する指標：SOGIESC(ソジエスク)

(Sexual/Orientation/Gender Identity/Gender Expression/Sex Characteristics)

- ・性的指向…恋愛感情や性的な関心・興味が主にどの性別に向いているか／関心・興味の有無や強さ
- ・性自認……自分がどのような性別であるか又はないかについての認識
- ・性表現……服装・髪型・しぐさ・喋り方などの外部的な表現
- ・性的特徴…染色体・ホルモン値・筋肉量・体毛など、生物学的な性別を示す身体的特徴・行動特性

性的マイノリティの人はどのくらいいるの？

8.0%=12.5人に1人 (博報堂 HY ホールディングス調べ 2016年)

→AB型、左利きと同じくらいの割合

親以外へのカミングアウトをしたのは、10代で41%

自分自身の性について、親にはなしやすいか(→否)“話しづらい”と感じている。

親や先生に理解してもらい、相談できる環境が大事。

以前は教職員でも LGBT を知らない人もいたが、学校現場での身体・性教育は変わってきている。

身体が 女性／男性 というだけではなく、人の数だけ性は多様に存在している。

Point

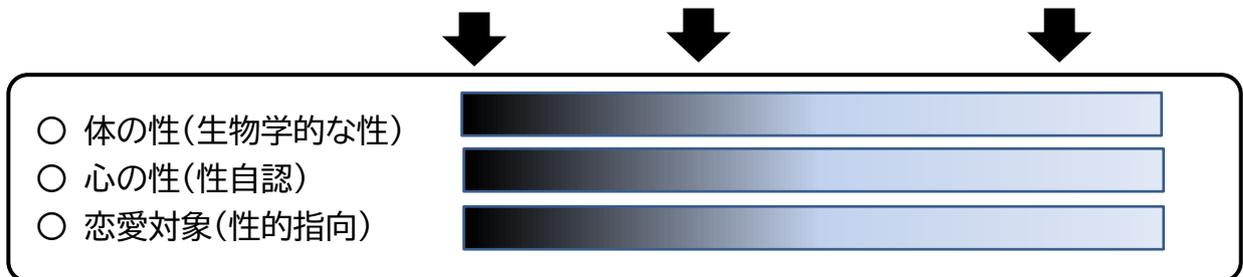
人それぞれの性的指向、性自認を理解して全ての人が、学校、家庭、友人関係において安心できる環境をつくっていくことが大事！

自分のあたりまえ ≠ 他人のあたりまえ

「性的マイノリティ」に対する正しい理解

それは10か0かではなく、グラデーションのどの位置にあるかで考えてみる。

「自分は100%男である」と言い切れる人もいれば、そうでない人もいる、ということを理解する。



※自分がこのグラデーションでどの位置にいるか、確認してみよう。

2、性的マイノリティについて

- L レズビアン
- G ゲイ
- B バイセクシュアル
- T トランスジェンダー
- I インターセクシュアル
- Q クエスチョニング

カテゴライズせず
その人らしさを尊重してほしい

見た目だけでは、分からない

相談の有無に関わらず、決めつけないことが大切

安心して語れる地域づくり、学校・職場作りが出来ているだろうか？

大切なのは…気づきにくいだけであり「側にいるという感覚や意識をもつこと」

日本における性的マイノリティ事情 近年の動向として、文部科学省より

同性愛や性同一性障害などを含む性的マイノリティの子どもについて、配慮を求める通知を全国の国公立の小・中・高校などに出した。(2015年4月30日)

(内容)子どもが相談しやすくなるために教員が性的マイノリティについての心無い言動を慎むことや子どもの服装や、髪型について否定したり、からかったりしないよう明記した。その他の対応も柔軟に対応するように明記されている。

<高校>2017年度から高校で使われる教科書に「LGBT」という言葉が初めて登場。

性的少数者や超な家族については、地理歴史や公民、家庭の3教科 計31点に記述。

<中学>2019年度から「性的少数者」道徳の教科書で、性同一性障害の中学生の物語を掲載。

いじめや暴力をうけた時期

小1から増え始め、中2が一番多く、高校になると減るが相談件数は多くなっている。(全体の7割弱)

→虐待・暴力の相談は年々増えている

そして精神的なものに変わってきている。

身体的な暴力、言葉による暴力、性的な暴力(服を脱がされる・恥ずかしいことを強要)、無視・仲間外れなかでも、**言葉による暴力**が最も多い。

(例)男らしくなさい・・・ 気持ち悪い・・・等

これらを放置すると、いじめられた本人は、自殺を考えるようになる

ゲイ・バイセクシュアル男性(10代)における自殺念慮の統計では、64.7%が

性別違和感をもつ子どもの自殺念慮の統計では、58.6%が、本気で考えていたとでている。

子どもたちが生きづらさを感じている

→それはなぜか？

日頃、大人が発している当たり前の固定観念による言葉によるものが大きい。

今、出来ること

「本人がどうしたいのか」誰もがマイノリティであることを知る。

正しく知り、理解を深め、示すこと。

知ることから始まる。

大人の行動・発言が変わることで、子どもたちが安心して、相談できるようにすること。

性同一性障害に係る児童生徒に対する学校における支援の事例

項目	学校における支援の事例
服装	• 自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める。
髪型	• 標準より長い髪型を一定の範囲で認める(戸籍上男性)。
更衣室	• 保健室・多目的トイレ等の利用を認める。
トイレ	• 職員トイレ・多目的トイレの利用を認める。
呼称の工夫	• 校内文書(通知表を含む。)を児童生徒が希望する呼称で記す。 • 自認する性別として名簿上扱う。
授業	• 体育又は保健体育において別メニューを設定する。
水泳	• 上半身が隠れる水着の着用を認める(戸籍上男性)。 • 補習として別日に実施、又はレポート提出で代替する。
運動部の活動	• 自認する性別に係る活動への参加を認める。
修学旅行等	• 1人部屋の使用を認める。入浴時間をずらす。

平成27年4月30日 27文科初児生第3号

3、清水氏ご自身の体験から

いつから？➡物心ついたときから

スカートよりもズボンをはきたかった。

ままごとよりも、外で遊びたかった。

プールでも女子用の水着を着たくなかった。

七五三や入学式、卒業式のかわいい服装を着たくなかった・・・等々

親となった今では、親としての気持ちもわかるようになったが、当時はわからなかった

(小学校時代)

好きな私服を着ていたが、高学年ともなると周りの見る目が変わってきた。

「男みたいやなー」と言われた。

いわれて嫌な言葉を言われるようになったが、「嫌だから言わないで」と言えなかった。

1人が言うと、他の子も言うようになった。

指をさされて、嫌な言葉をかけ、逃げていく子もいた。

勉強をがんばろうと思っても、運動会をがんばりたいと思っても、学校が好きなのに怖くなった

➡それでも6年間通えたのは、いじめてくる子はクラスの全部ではなく一部で、

気にしなくていいと言ってくれる親友がいたから。

(中学校時代)

制服の壁・・・これからいく学校に安心材料があれば相談できたが友達がどう思うか、先生から特別扱いを睨まれるのではないかと思った。

自身の身体の発達に違和感、女子を好きになる自分がおかしいのではないかと思った。

友人の恋愛トークがうらやましいと思った。

友人・学校・親にも気づかれてはいけない、元の自分を出せずにいた。

自分らしいどころではなく、女らしくないとだめだと思った。

(高校時代)

『女らしくする』と決意して、セーラー服にルーズソックスを履き、化粧もした。

・・・が、1か月と続かなかった。

無気力になり、やる気がなくなった。

中学時代は陸上部や生徒会にも参加していたが、高校で入ったバスケ部もすぐにやめ、引きこもるようになった。

身体の違和を感じていても、親・友人・先生にも言えない状況だった。

『自分が生きている意味がない、存在価値がない、分かり合えない、自分らしく生きられない』
とっていたちょうどその時に、

↓
テレビでやっていた『3年B組金八先生』で性同一性障害を知った。

↓
髪を切って、スカートを捨て、ずっとやりたかったサッカー部(女子)を作り
少しずつ、自分を表現できるようになっていった。

(大学時代)

胸に秘めていた悩み事を、泣きながら友人たちにカミングアウトできた。

この時友人たちも泣きながら、「信頼して、伝えてくれてありがとう」と言ってくれ病院の付添いもしてくれた。

18歳の時に、ご両親にカミングアウト。
父の反応・・・思い込みだ！と叱られた。
母の反応・・・育て方が悪かったとショックを受けていた。
妹たちの反応・・・家の中がおかしくなったといわれた。
➡家にいる場所がないと感じた。

その後、大学病院にて診断を受け、性同一性障害との診断を受け、心の性別に体を合わせる治療を始めることとなる。

21歳のときに、海外で性転換手術。
2004年 性同一性障害特例法が制定され、戸籍の変更が可能となった。

当時は女性として就職していたため退職し、男性として再就職先を探すも、道は険しかった。
現在は男性なのに、女子体育大学を卒業していること、性転換をしたひとがいないため、会社がどう扱ってよいかわからないと断られることが続いた。

病院に相談に行っても、まだ特例法が出来たばかりだから頑張れとしか言いようがなかったし
今のように支援団体もなかった。

➡そんな中、就職できた畳屋に、話を聞いてくれる先輩がいた。
「やりたいこと、夢や目標があるならあきらめる必要はない」と言ってもらった。
そして、勉強をし直して、精神科のジェンダークリニックで働き、治療やカウンセリングの道へ。
そこで、現在のパートナーと出会い、家族をもち、現在に至っている。

結論

自分を変えようとしても、性的趣向は変えられない。
性的マイノリティは身近にいるという事を知り、受け入れる環境が、社会・学校・家庭にあるということ。

自分は自分でいい、と思えること。
生まれてきてよかったと思えること。
性的ソジエスクに対する偏見・差別をなくすこと。

**子どもたちが、自分らしい生き方が出来るためには大人の及ぼす影響は大きい。
適切な知識とともに考える場があること。
誰もが誇りをもって生きられる社会になりますように。**

以上